



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.86

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2023.夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



© 2023 Pokémon. © 1995-2023 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.  
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

**2023年7月15日(土) → 9月18日(月)**  
**9月23日(土) → 12月3日(日)**  
(9月19日～22日は観覧できません)

お待たせしました。第68回企画展は「ポケモン化石博物館」です。

人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズのふしぎな生き物「ポケモン」には、カセキから復元されるポケモン「カセキポケモン」がいます。この企画展は、「カセキポケモン」と私たちの世界で見つかる「化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なるところを見つけ、古生物学を楽しく学ぶものです。ポケモンの世界の「カセキ博士」と「発掘ピカチュウ」、私たちの世界の博士たちの案内で展示をめぐって、2つの世界の「かせき」をじっくり見比べてみよう！

目玉展示は、関東地方では初披露となるツンドラポケモン「アマルルガ」の骨格イメージ模型！その比較対象であるアマルガサウルス全身骨格も展示。また、化石については、群馬オリジナルの標本追加も準備中。ご来館をお待ちしています！  
(地学研究係 高桑 祐司)

「ポケモン化石博物館」の詳細や関連イベントに関する情報は、[当館ホームページ](#)をご覧ください。

## 展示紹介

# アマルガサウルス全身骨格



アマルガサウルス（大分会場での展示風景）

ツンドラポケモン「アマルガ」と比べると、「ポケモン化石博物館」で展示するのがアマルガサウルスです。竜脚類のディクラエオサウルス科であるこの恐竜は、アルゼンチンのラ・アマルガ層（前期白亜紀）で見つかりました。この仲間の特徴は背骨の棘突起が発達することで、アマルガサウルスでは首の背骨（頸椎）がかなり長くなっています。

このアマルガサウルスは、1996年の開館記念展の際に当館で展示され、後に当館の標本となりました。国内にはこの1体しか無い貴重な標本なので、通常は神流町の恐竜センターで展示していただいています。「ポケモン化石博物館」開催期間中は、このアマルガサウルスをはじめとする4大陸の竜脚類恐竜を当館で見ることができます。

（地学研究係 高栗 祐司）

## 自然のコラム 常設展「群馬の自然と環境」

一部  
リニューアル  
しました

2022年12月、自然史博物館常設展「群馬の自然と環境：B6 群馬の自然環境」コーナーをリニューアルしました。テーマは、「つながりあい、かかわりあう生き物たち」です。

地球上の生き物たちは互いにつながりあい、かかわりあいながら暮らしています。わたしたちに見えるのはその一端にすぎず、そこには果てしない未知な世界が広がっています。わたしたちの暮らしもまた、ぐんまの大地と生き物たちのかかわりの中で生まれ、つむがれてきました。ジオ多様性（地形・地質・水・風・雨・気温など）、生物多様性があり、文化多様性が育まれてきたのです。その一方で、わたしたちの営みは、自然環境を大きく変化させてきました。森林伐採や、農地や植林地の開発、道路や建造物等の開発行為は、地形を改変し、そこに暮らす生き物の生息環境を消失させてきました。わたしたちが維持管理することで保たれてきた草地や二次林は利用されなくなり、維持管理されていた環境に依存していた生き物たちは数を減らす一方、管理されなくなった環境を好む生き物たちは増えてきました。一度、大きく壊れた自然はヒトの手が入らなくなったら元に戻るものではなく、生態系のバランスは壊れたまま変容していきます。このことに目を向けていただきたいとの願いを込めました。

展示をリニューアルするにあたり、とくに工夫したのは以下の4点です。

### 1. 転用しました

標本を設置するためのボーダー壁を新設し、ブナの枝をあしらいました。このブナの枝は、ブナ林ジオラマのブナの一部が壊れたので、それを転用したものです。枝の上には「森のスケーター」ことヤマネが走っています。

### 2. 修復しました

モモンガが飛びました。このモモンガ剥製は、とあ

る学校から御寄贈いただいたものですが、保存状態が悪くボロボロだったのを職人さんが美しく修復してくださいました。

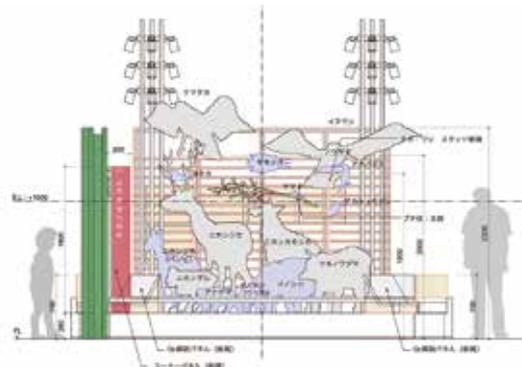
### 3. 増えました

ヨタカ、アオバズク、アカショウビン、イノシシ、アナグマ、ウサギ、ニホンジカ（幼）、ヤマネ、モモンガが新たに収蔵庫からお目見えしました。アナグマは、みつかってびっくりしているのか、やや上目遣いのかかわいい子です。

### 4. 新設しました

2022年度、群馬県 RDB\*（レッドデータブック）が更新されました。絶滅のおそれの主な危険要因は水辺の自然環境の悪化、森林の開発、土地造成、山地草原の減少にともなう環境悪化、里山減少と環境変化、平地の自然度の劣化、高齢過疎化に伴う管理放棄による環境変化等です。オミナエシ、キンラン、エビネ、ミズニラ、サンショウモのレプリカ（製作：西尾製作所）の他、昆虫類、両生・爬虫類等の標本を配しました。

\* 絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト（生物研究係 姉崎 智子）



群馬の自然と環境改修図の一部

## 研究の扉

# ぐんまの自然を調べる —自然史総合調査—

群馬県立自然史博物館では県内に調査地域を設定し、植物や動物、化石や地質など群馬の自然について様々な分野で総合的に調査を行っています。昨年度まではみなかみ町を調査地域として自然史総合調査を実施しました。「研究のとびら」では今回から3回シリーズで各職員による調査結果をお伝えします。

### 小型哺乳類調査

調査ではシャーマントラップとよばれる生け捕り式のワナをつかってネズミやモグラの捕獲調査を行いました。調査では一日目の夕方に調査地点にトラップを設置します。トラップに用いるエサはオートミールを使用しました。調査地点にもよりますが、1地点でおおよそ20個程度のトラップを設置します。そして翌日の朝、設置したトラップの回収を行います。調査地点や調査の時期によって捕獲率は様々ですが、今回のみなかみ町の調査では調査全体で約1500個のトラップを設置し、110個体のネズミ・モグラ類が捕獲されました。



今回の調査で捕獲されたアカネズミ

捕獲されたネズミ・モグラ類は体長や尾の長さなどを計測後に捕獲された地点で放します。

今回の調査で捕獲されたネズミの内訳はほとんどが

アカネズミで全体の67%を占めました。次に多いのがヒメネズミで全体の24%です。アカネズミとヒメネズミはどちらも日本固有種で低地から高山帯まで広く生息しています。ただし、アカネズミは地上性に樹上での利用はほとんど無いのに対して、ヒメネズミは半樹上生活をしています。

今回の調査では年間を通して捕獲調査をしましたが、幼体が捕獲された時期はアカネズミ・ヒメネズミともに春から初夏（5～7月）と秋（9～11月）の調査だけでした。このことから、それぞれの種の妊娠期間などを考えると、みなかみ町での両種では年2回（春期及び夏期）の繁殖期間を持っていることがわかりました。（生物研究係 木村 敏之）



捕獲調査地点（ピンク色のリボンのある所にトラップが設置されている）

### 一ノ倉沢のおいたちを探る

地質・岩石分野では、主に谷川岳の一ノ倉沢周辺の調査を行いました。一ノ倉沢はご存知の通り急崖絶壁なので、岩石ハンマーで露頭（岩石が露出している場所）を叩きながら調査することが困難な場所が多いです。したがって、沢沿いの転石を調べることで一ノ倉沢周辺の地質の成り立ちを一部だけでも読み解くという計画で調査を進めました。転石を調べることで、転石が転がっていた場所より高い所の地質・岩石を知ることができます。地質調査で最も重要なことは、異なる種類の岩石が接している場所を調べることと言っても過言ではありません。2種類の岩石が接している境界部を調べることで、どちらの岩石が先に存在したのか、なぜそしてどのようにそれらの岩石が接することになったのかなどを知ることができます。花崗岩と「ごましお」のような見かけの花崗閃緑岩の境界部の岩石資料は今回の調査の成果の一つです。境界部が見えるように切断・研磨すると、花崗閃緑岩の中に花崗岩の粒が含まれることがわかります（写真）。これは、



一ノ倉沢の転石の研磨片写真  
花崗閃緑岩(左)と花崗岩(右)

花崗岩がある場所に花崗閃緑岩をつくるマグマが貫入してきて、その時に削られ取り込まれた粒であるため、形成順序は、花崗岩が先、花崗閃緑岩が後ということがわかるのです。（地学研究係 菅原 久誠）

# 「移動博物館 ～収蔵庫から皆様の街へ～」

「みなかみにも化石があったことを知り、驚いています！」(65歳)  
 「館林に食虫植物がいたことを知れてうれしかったです」(小学6年生)  
 これは、移動博物館に来館された方からの感想です。

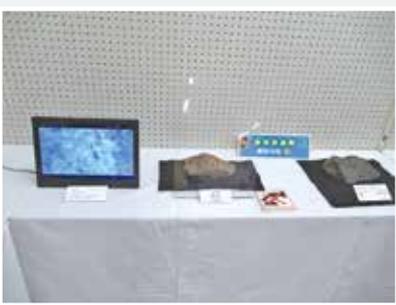
当館では、県民の皆様が自然に対する興味・関心を高め、自然史博物館の活動に理解を深めていただくことを目的に移動博物館を実施しています。令和4年度は、みなかみ町中央公民館(みなかみ町)・嬭恋会館(嬭恋村)・館林市立第七小学校(館林市)において移動博物館を開催しました。

約100点の標本を博物館の収蔵庫から開催場所へ運び、展示します。鉄隕石の展示から始まり、三葉虫、アンモナイト、デスモスチルスの歯の化石など、地質年代順に展示が続きます。ニホン



カモシカやイノシシ、野鳥などの剥製、動物やヒトの頭骨の標本も多数展示されます。これらの展示資料に加え、開催場所にゆかりのある資料を展示するコーナー(地元コーナー)を設けています。みなかみ町では、「新治村(現みなかみ町)のズニ石」「赤谷層のウニヤキヌタレガイ」、嬭恋村では、「嬭恋村のシャグマアミガサタケ」「嬭恋村で捕獲されたクマの頭骨」、館林市では、「ムジナモのアクリル標本」「渡良瀬遊水地におけるカメラトラップの画像」などが、それぞれ地元コーナーに並びました。これらの資料は、博物館の地学研究係、生物研究係の担当職員が日々の博物館活動の中で収集したり調査したりしたものも含まれます。展示の際は、担当職員が作成したキャプションを資料と一緒に置いたり、会場で展示解説員が解説をしたりすることで、来館者の理解をより深めていただけるよう、努めています。

自分が通う小学校の近くの沼に「ムジナモ」という食虫植物がいたことを展示や解説で知り、その知識を得たことを喜びに変えた小学生のように、県民の皆様が自然に対する興味・関心を高めていただけるよう、今後も引き続き、博物館の収蔵庫から、皆様の街に資料をお届けしていきます。お近くで移動博物館の開催がありましたら、是非お越しください。お待ちしております。  
 (教育普及係 橋本 真里子)



ズニ石、モノチス(奥利根の二枚貝化石)  
 (みなかみ町にて開催)



クマ頭骨、コウリンカ、カラフトイバラ  
 (嬭恋村にて開催)



ムジナモ  
 (館林市にて開催)

## 利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)  
 詳細は、ホームページをご確認ください。

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみの開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第68回企画展開催時 (R5.7.15～9.18 9.23～12.3)	1,000円 (800円)	500円 (400円)

第68回企画展  
 「ポケモン化石博物館」  
 の開催期間中は、  
 事前予約が必要です。



\*中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。  
 \*( )内は、有料者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより  
 Demeter No.86

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
 Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
 ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため  
 植物油インクを使用しています。